



J N T O 訪日外客実態調査 2006-2007
(外国人旅行者の国内訪問地データ)
調査結果速報



平成19年9月28日

独立行政法人
国際観光振興機構(JNTO)

問い合わせ先：

国際観光振興機構（JNTO）事業開発部

電話：03-3216-1905

FAX：03-3216-6026

調査概要

- 目的 : 訪日外国人旅行者の実態の把握
- 調査対象 : 日本旅行を終え、出国直前の、滞在期間が2日以上90日以下の外国人旅行者
- 調査方法 : 外国語能力を備えた調査員によるインタビュー調査
- 調査場所 : 9空海港(新千歳、仙台、成田、羽田、中部、関西、福岡、那覇の各国際空港及び博多港)の出国待合室
上記空海港で、出国者の約90%をカバー
- 調査時期 : 夏(2006年7月～8月)、秋(2006年10～11月)、冬(2007年2月～3月)
- 調査内容 : 旅行者の属性(国籍、居住地、性・年齢別構成)
旅行者の国内訪問実態(都道府県別、都市・観光地別訪問率)、
宿泊日数
旅行者の訪日目的(観光、商用、親族友人訪問等)
旅行者の訪日動機(日本に対する興味)、訪日回数
旅行者の旅行形態 等
- サンプル数: 13,891
居住地別内訳: 韓国 3,486、台湾 2,552、中国 1,134、香港 746、米国 1,746
英国 566 その他 3,661

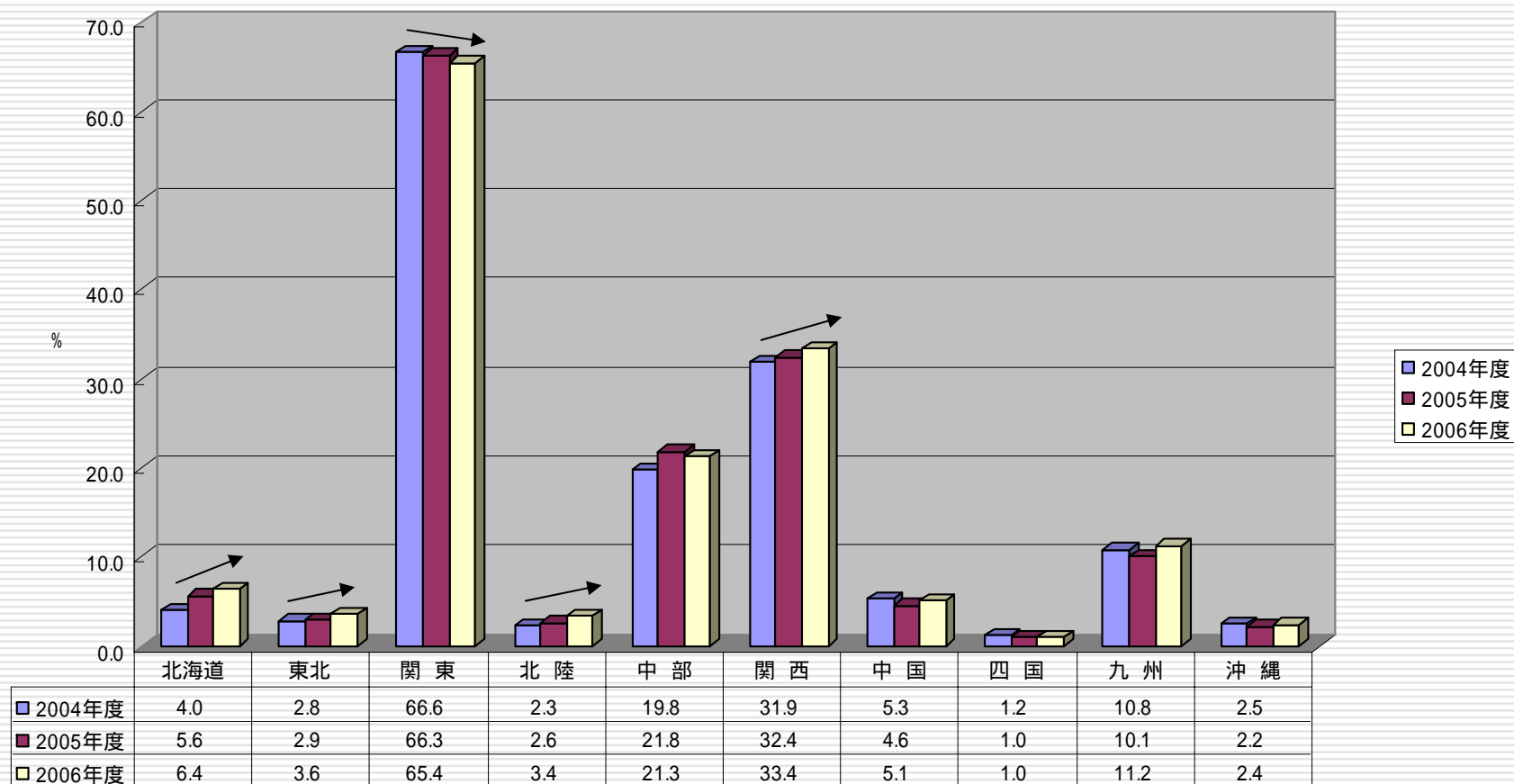
•注: 上記9空海港以外へのチャーター便は考慮されていないことから、チャーター便の多い地方等においては、実際の訪問実態よりも低く反映されてしまっている可能性がある。

全体傾向

ブロック別訪問率 – 地方の訪問率が増加傾向

図表1 【ブロック別訪問率の推移】

• ブロック別に見ると、関東がやや減少気味であるのに対し、北海道・東北・北陸・関西など地方の訪問率が増加傾向にある。



全体傾向

都道府県別訪問地 - 東京、大阪、京都、神奈川、千葉がトップ5

図表2 【都道府県別訪問率の推移】

・1位から9位の順位は3年間変わらず。商用客と初訪日の観光客が多く訪れる大都市圏が上位を占める。

2002年度 訪日外客数 5,314,590 人	2003年度 訪日外客数 5,354,026 人	2004年度 訪日外客数 6,286,654 人	2005年度 訪日外客数 6,841,245 人	2006年度 訪日外客数 7,561,195 人										
平成14年度(N=7,602) 2002-2003	平成15年度(N=4,829) 2003-2004	平成16年度(N=10,660) 2004-2005	平成17年度(N=12,232) 2005-2006	平成18年度(N=13,891) 2006-2007										
順位	都道府県	訪問率 (%)	順位	都道府県	訪問率 (%)	順位	都道府県	訪問率 (%)	順位	都道府県	訪問率 (%)	順位	都道府県	訪問率 (%)
1	東京	52.7	1	東京	54.5	1	東京	58.2	1	東京	58.5	1	東京	57.4
2	大阪	27.8	2	大阪	27.0	2	大阪	21.6	2	大阪	22.6	2	大阪	23.7
3	神奈川	15.6	3	神奈川	15.8	3	京都	17.4	3	京都	19.1	3	京都	20.3
4	京都	14.7	4	京都	15.2	4	神奈川	16.4	4	神奈川	18.9	4	神奈川	18.8
5	千葉	13.2	5	千葉	12.1	5	千葉	13.0	5	千葉	15.4	5	千葉	16.7
6	愛知	11.2	6	愛知	9.7	6	愛知	9.6	6	愛知	11.9	6	愛知	9.6
7	北海道	9.1	7	兵庫	7.1	7	福岡	8.2	7	福岡	7.4	7	福岡	8.7
8	福岡	7.0	8	北海道	5.2	8	兵庫	6.2	8	兵庫	6.9	8	兵庫	7.4
9	兵庫	5.8		福岡	5.2	9	山梨	4.9	9	山梨	5.8	9	山梨	6.6
10	奈良	5.2	10	奈良	5.0	10	奈良	4.8	10	北海道	5.6	10	北海道	6.4
11	山梨	4.7	11	山梨	3.7	11	広島	4.1	11	奈良	4.9	11	奈良	6.1
12	静岡	3.9	12	静岡	3.3	12	北海道	4.0	12	静岡	3.6	12	長崎	4.3
13	沖縄	3.6	13	栃木	2.7	13	栃木	3.5		長崎	3.6	13	栃木	4.2
14	広島	3.2	14	沖縄	2.5	14	静岡	3.4	14	栃木	3.5	14	大分	4.0
15	栃木	2.7	15	埼玉	2.3		長崎	3.4		広島	3.5		広島	4.0
	長崎	2.7	16	広島	2.2	16	熊本	3.0	16	熊本	3.0	16	静岡	3.7
17	大分	2.4		大分	2.2	17	大分	2.7	17	大分	2.9	17	熊本	3.6
18	熊本	2.2	18	長崎	2.1	18	長野	2.6	18	沖縄	2.2	18	長野	2.7
19	埼玉	2.1		熊本	2.1	19	沖縄	2.5	19	埼玉	2.0	19	岐阜	2.5
20	長野	2.0	20	茨城	1.7	20	埼玉	2.1		長野	2.0	20	沖縄	2.4
				長野	1.7									
延べ訪問率 Total		210.7	延べ訪問率 Total		198.2	延べ訪問率 Total		209.0	延べ訪問率 Total		220.7	延べ訪問率 Total		235.7

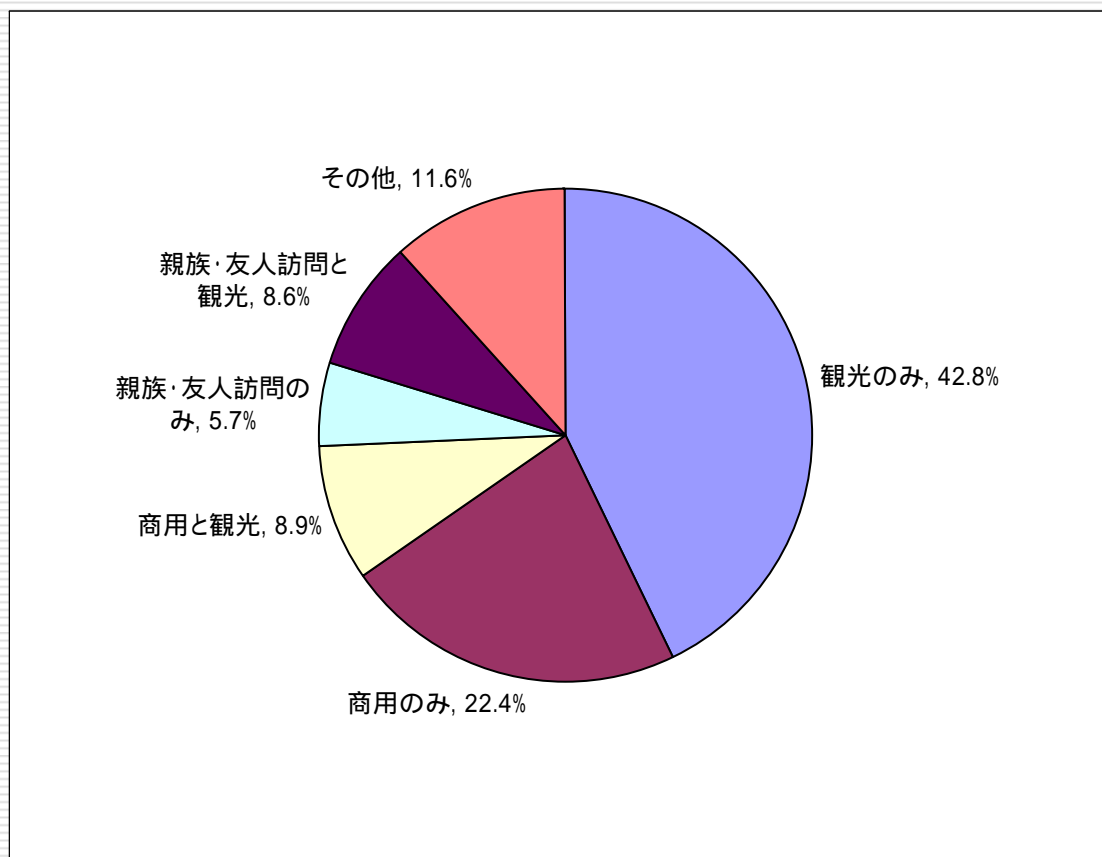
- ・注1： 訪日外国人旅行者の全体の数は年々増加しているため、訪問率が減少したとしても、当該地を訪問している旅行者の実数が減少しているとは限らない。
- ・注2： 2003年度はSARSの影響により、秋季と冬季の2回のみ調査を行った。
- ・注3： 延べ訪問率 = 各都道府県への訪問率を足し合わせた数値

全体傾向

訪日目的 — 観光客が4割以上

図表3 【訪日目的】

• 観光目的の訪日旅行者が42.8%と、商用(22.4%)、親族・友人訪問(5.7%)等を大きく上回る結果となった。

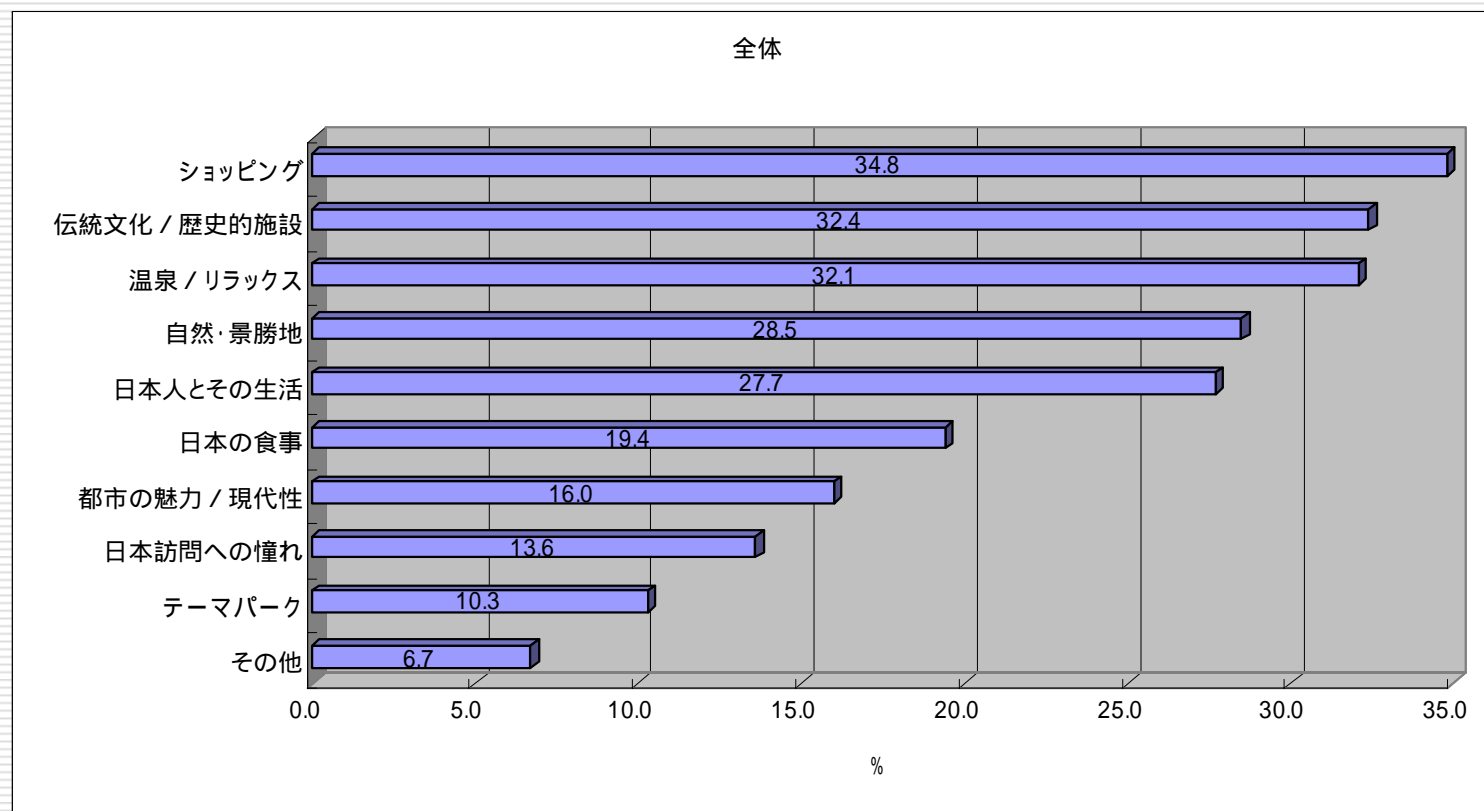


観光客の動向

訪日動機(観光客) - 「ショッピング」が34.8%で1位

- 全体傾向としては、「ショッピング」が、前年度1位の「伝統文化/歴史的施設」、2位の「温泉/リラックス」を抜いて1位となった。
- アジアは「温泉・リラクゼーション」「ショッピング」に対する関心が高く、米国・英国は「伝統文化・歴史的施設」「日本人とその生活」の比率が高い。
- 台湾・中国は「自然・景勝地」への関心も高く、香港は「ショッピング」の比率が極めて高い。

図表4 【訪日動機】(観光客)



最大3つまで選択可能な複数回答

観光客の動向

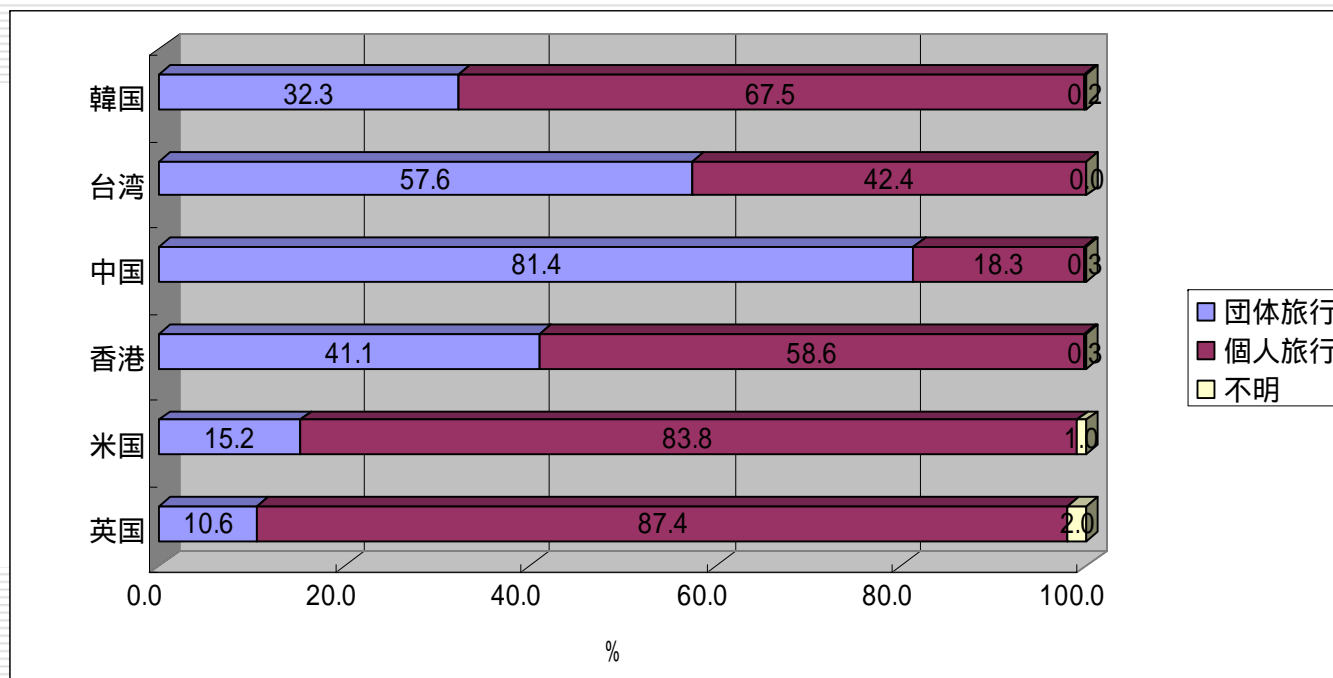
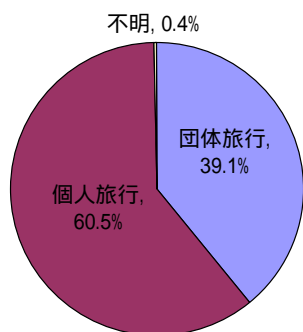
旅行形態(観光客)

- 個人旅行が全体の60.5%を占め、団体旅行の1.5倍

• 観光客では、団体旅行39.1%、個人旅行60.5%となり、2対3の割合で個人旅行が多い。米国・英国の観光客の個人旅行比率は8~9割で極めて高く、これに対し中国・台湾は、団体旅行の比率が6割~8割と、比較的割合が高い。

図表6 【訪日形態】(観光客/市場別)

図表5 【訪日形態】(観光客/全体)

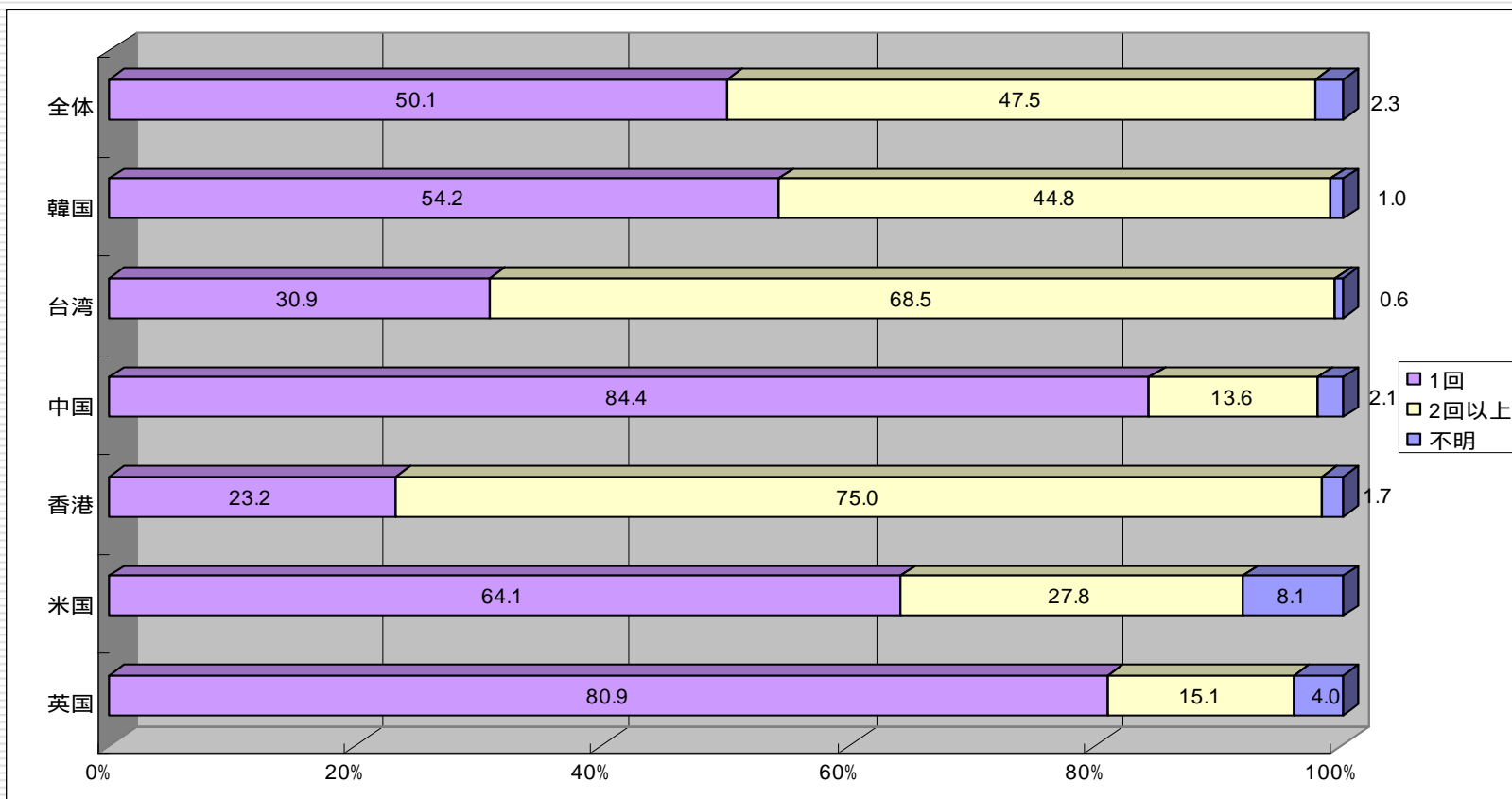


観光客の動向

訪日回数(観光客) - リピーターが半数

図表7 【訪日旅行回数】(観光客)

- 全体のリピーター率は47.5%
- 初訪日者の比率が高いのは、中国(84.4%)、英国(80.9%)で、リピーターの比率が高いのは、香港(75.0%)、台湾(68.5%)である。

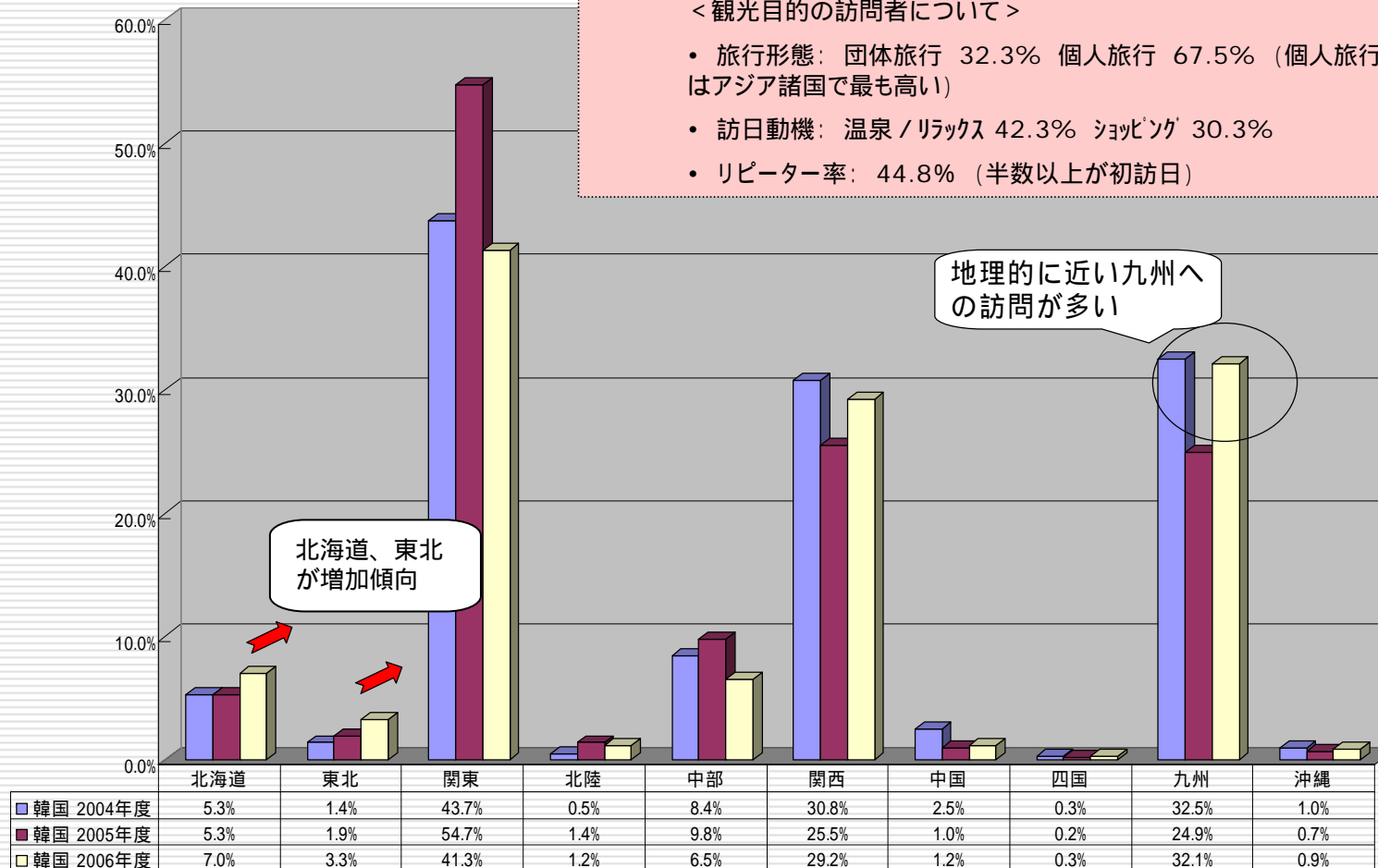


今回観光の目的で訪日した観光客を対象とし、これまで観光目的で訪日した回数を集計

観光客の動向 韓国 – 半数が初訪日 九州への訪問率が高い

図表8 【ブロック別訪問率の推移】(韓国・観光客)

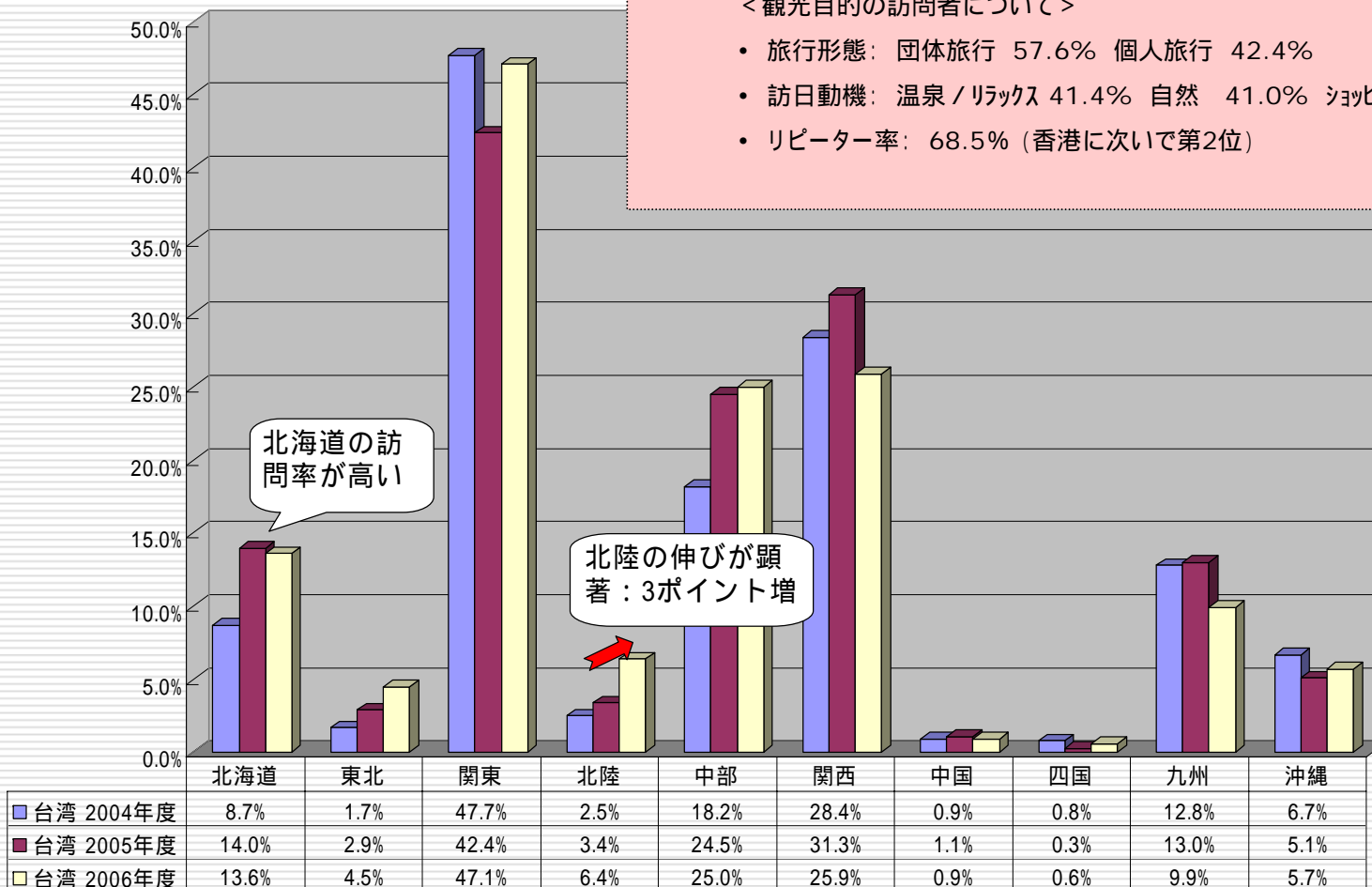
- 旅行目的: 観光 45.8% 商用 19.3% 親族友人訪問 5.8%
- < 観光目的の訪問者について >
- 旅行形態: 団体旅行 32.3% 個人旅行 67.5% (個人旅行比率はアジア諸国で最も高い)
- 訪日動機: 温泉/リラックス 42.3% ショッピング 30.3%
- リピーター率: 44.8% (半数以上が初訪日)



観光客の動向 台湾 – リピーターが7割の成熟市場 地方への訪問率も高い

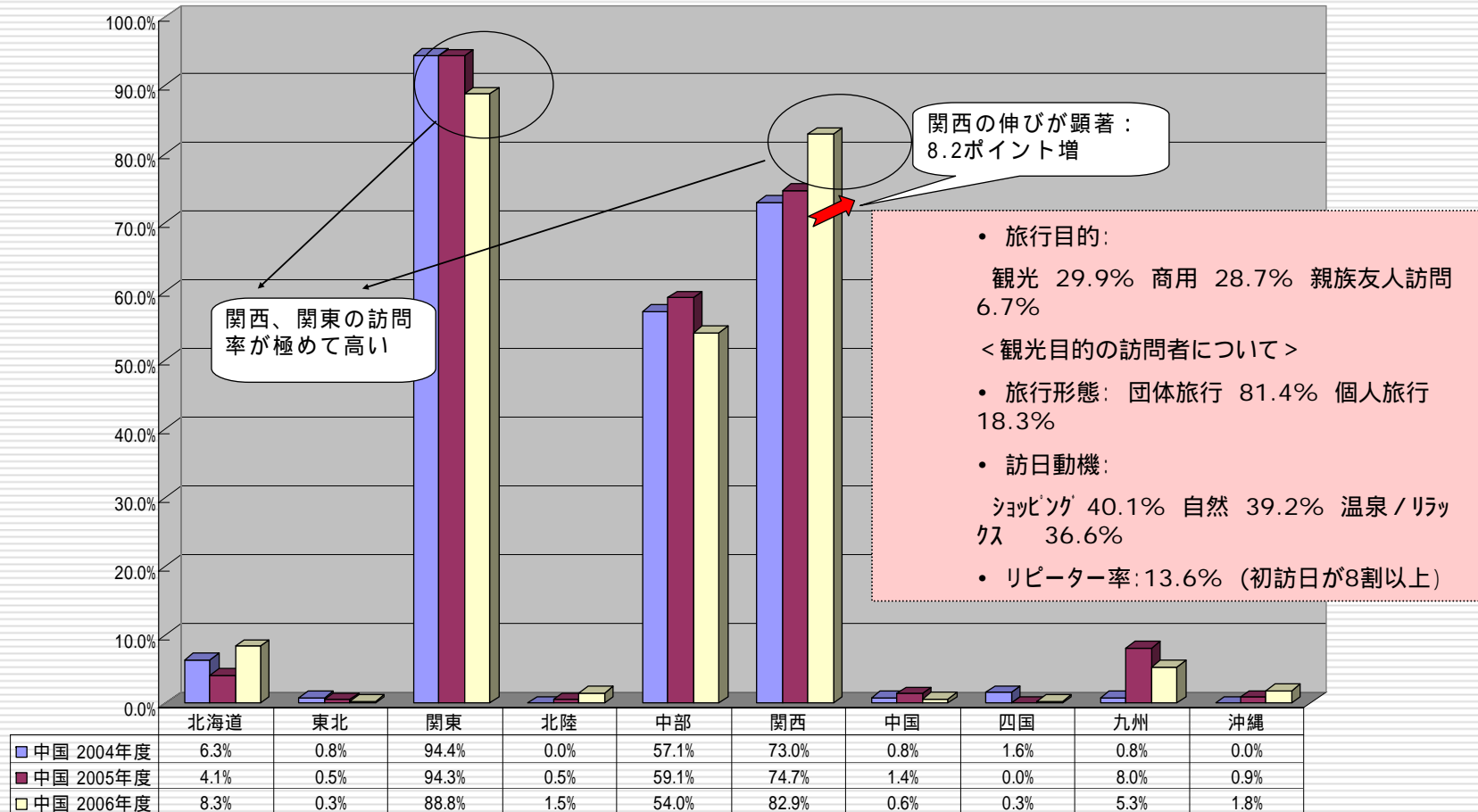
図表9 【ブロック別訪問率の推移】(台湾・観光客)

- 旅行目的: 観光 67.9% 商用 11.0% 親族友人訪問 2.7%
- <観光目的の訪問者について>
- 旅行形態: 団体旅行 57.6% 個人旅行 42.4%
- 訪日動機: 温泉/リラックス 41.4% 自然 41.0% ショッピング 40.0%
- リピーター率: 68.5% (香港に次いで第2位)



観光客の動向 中国 – 初訪日が8割 関東から関西に至る「ゴールデンルート」に訪問が集中

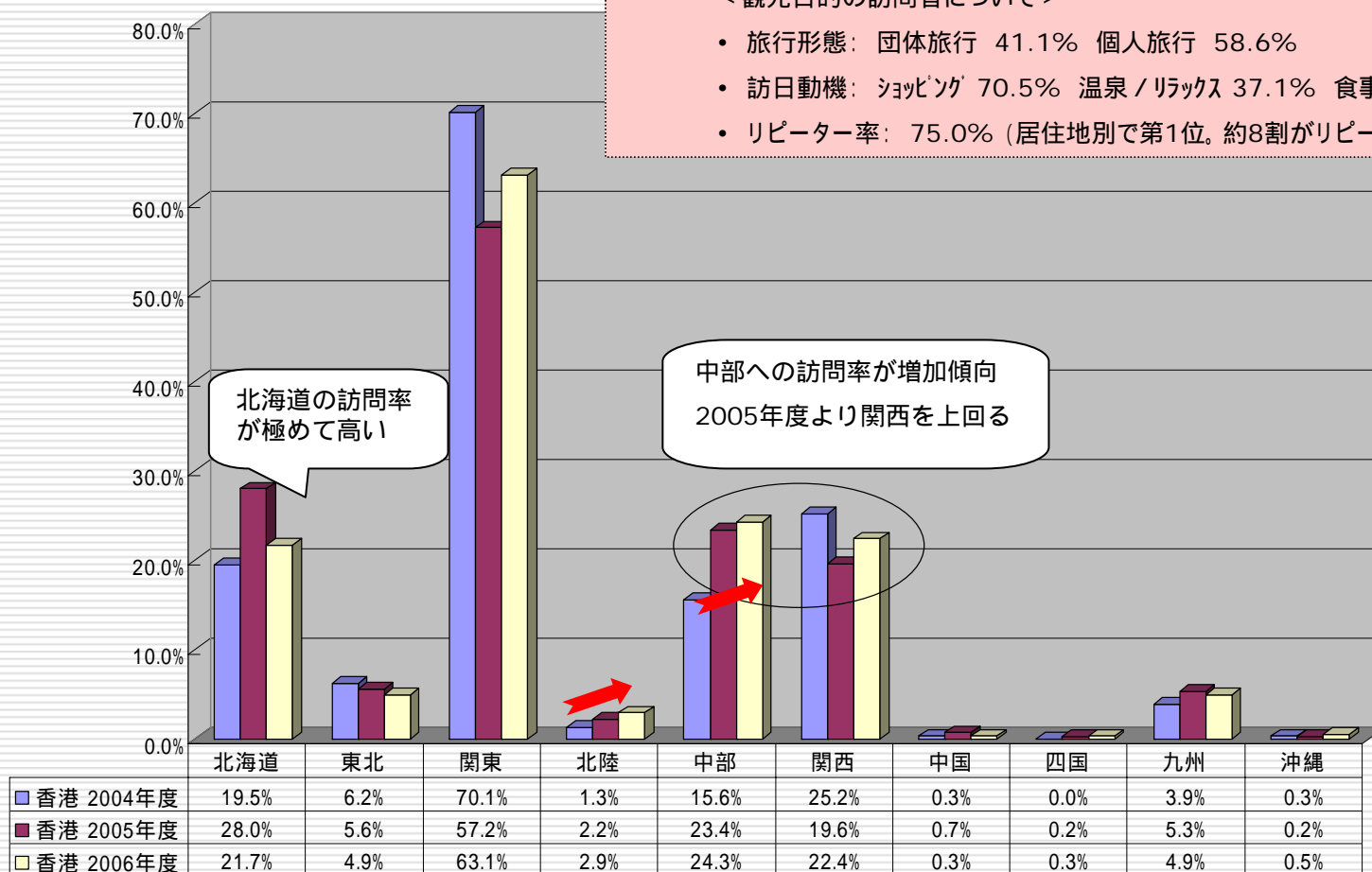
図表10 【ブロック別訪問率の推移】(中国・観光客)



観光客の動向 香港 – 8割がリピーター 北海道の訪問率が極めて高い

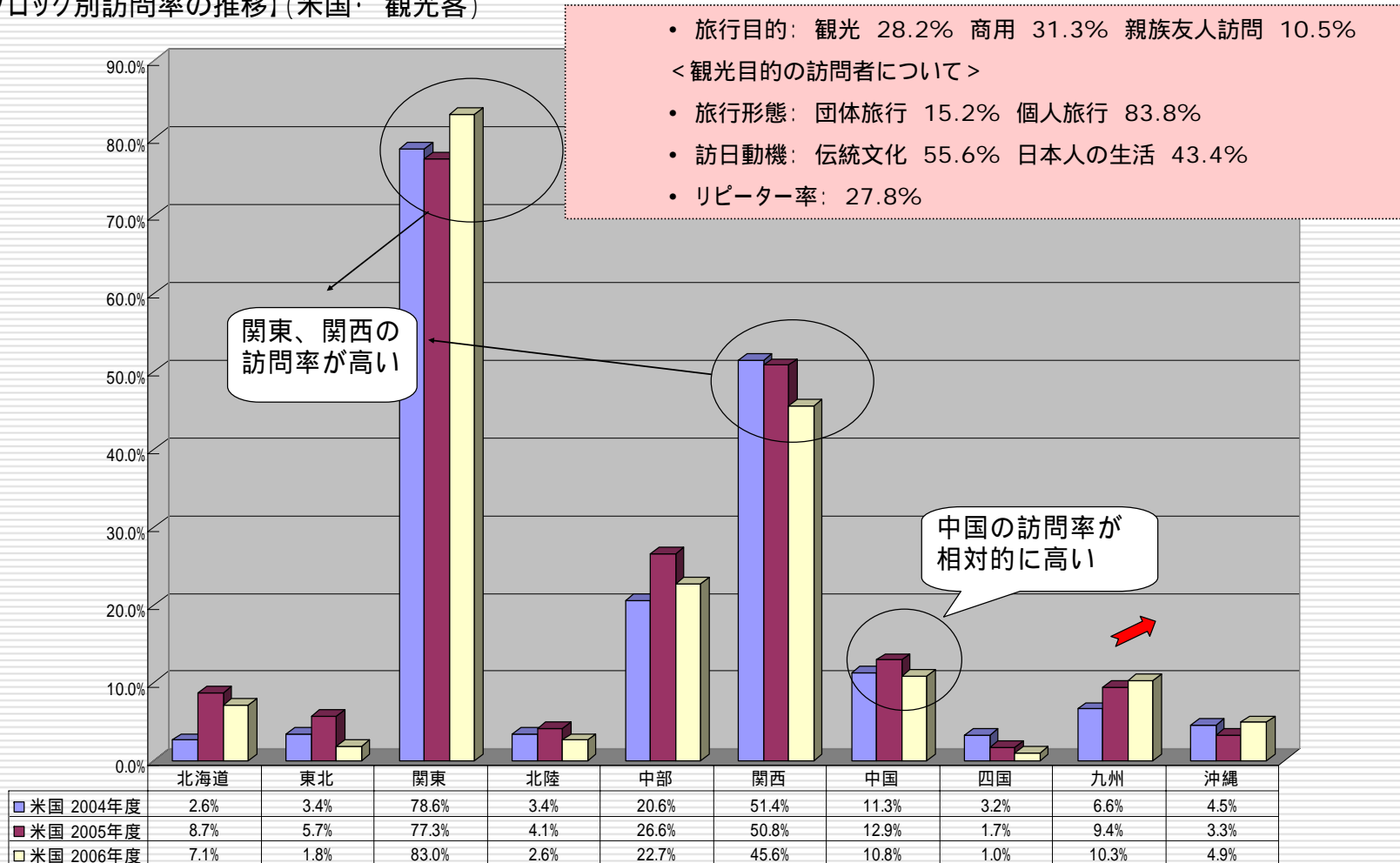
図表11 【ブロック別訪問率の推移】(香港・観光客)

- 旅行目的: 観光 77.3% 商用 11.8% 親族友人訪問 1.6%
- <観光目的の訪問者について>
- 旅行形態: 団体旅行 41.1% 個人旅行 58.6%
- 訪日動機: ショッピング 70.5% 温泉/リラックス 37.1% 食事 32.4%
- リピーター率: 75.0% (居住地別で第1位。約8割がリピーター)



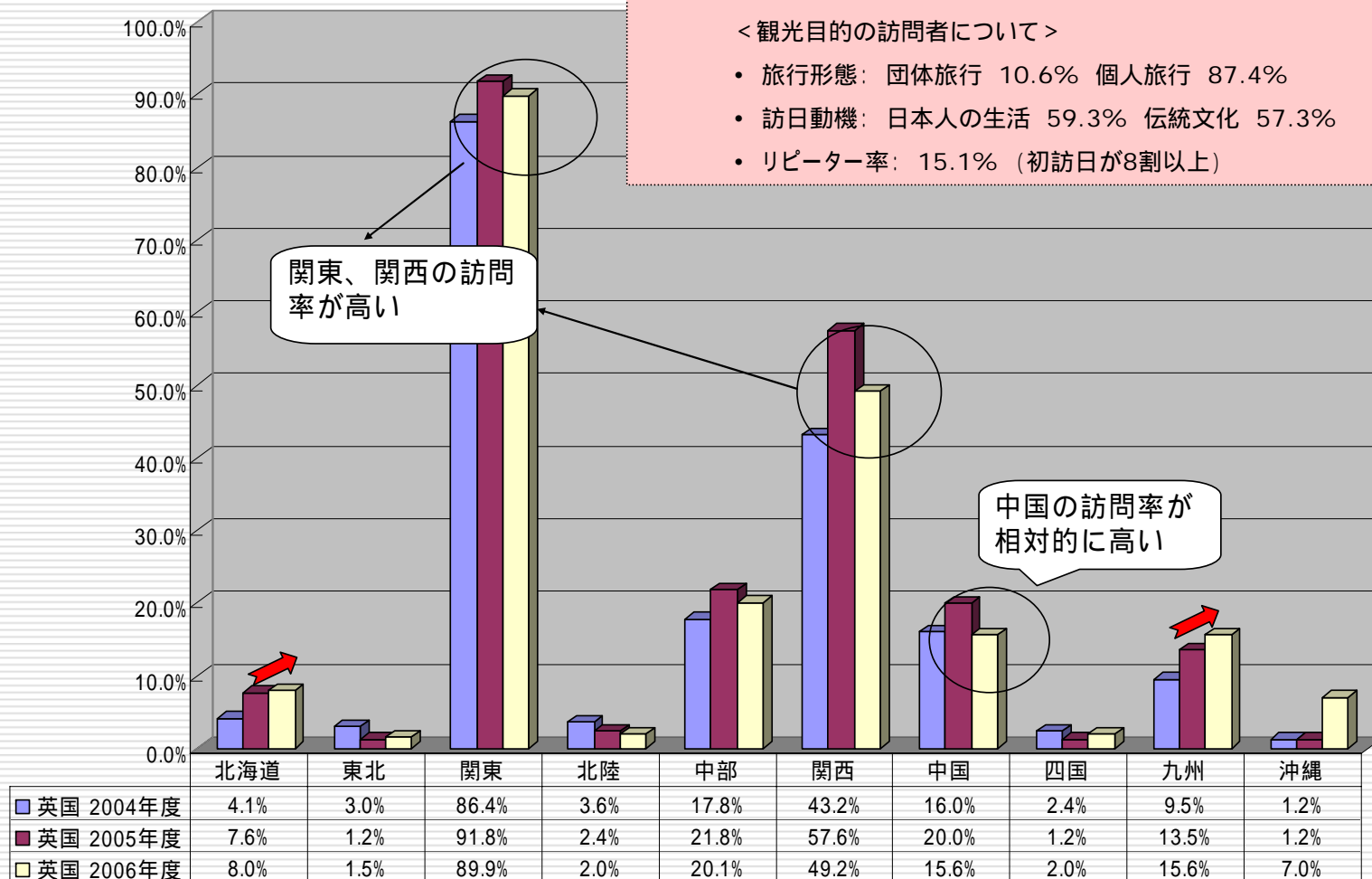
観光客の動向 米国 – 伝統文化・日本人の生活に関心 関西の訪問率は減少傾向

図表12 【ブロック別訪問率の推移】(米国・観光客)



観光客の動向 英国 – 8割が初訪日 個人旅行の割合が9割を占める

図表13 【ブロック別訪問率の推移】(英国・観光客)



- 旅行目的: 観光 35.2% 商用 28.6%、親族友人訪問 6.9%
- <観光目的の訪問者について>
- 旅行形態: 団体旅行 10.6% 個人旅行 87.4%
- 訪日動機: 日本人の生活 59.3% 伝統文化 57.3%
- リピーター率: 15.1% (初訪日が8割以上)